

2022年3月の行事予定表

1	火		16	水	
2	水		17	木	
3	木		18	金	
4	金	礼拝式、臨時総会【役員選挙】 教会役員会	19	土	礼拝式
5	土		20	日	
6	日		21	月	
7	月		22	火	
8	火		23	水	
9	水		24	木	
10	木		25	金	
11	金	礼拝式、午後から日本ナザレン教団 パワハラ講演会(ズーム形式)開催	26	土	礼拝式
12	土		27	日	
13	日		28	月	
14	月	教団理事会	29	火	
15	火	// 午後、教団年会(書面形式)	30	水	
			31	木	

3月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 北京オリンピックが終わって、いまだにカーリング（女子）試合の興奮がさめやらない日々です。
- ◇ 目的めがけて投げられた石（ストーン）が、ス〜っと滑ってコツンと当たり……。私はあの石（ストーン）にととてもとても親近感というか一体感を覚えてしまうのです。
- ◇ 私たちにひきかえて考えてみました。私たちは石で、神様の手に握られ、最高最大の思いを込め、ベストのルートで投げられる。何かに当たってびっくりしたり痛い思いをしたりするけど、試合の最後になってはじめて自分が投げられた意味を知る。
- ◇ 沖縄の医師・田頭（たがみ）先生の本「老金期」（ろうごんき）で、『老年の時期は、オリンピックという人生の晴れ舞台で、金メダルを受取る時と同じような、厳しい試練の結果を手にする時期なのです。』を読んだからかもしれません。

教会月報

2022年3月

No.370

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

ウィズ・コロナ

「『監督の職を求める人がいれば、その人は良い仕事を望んでいる。』だから、監督は、非の打ちどころがなく、一人の妻の夫であり、節制し、分別があり、礼儀正しく、客を親切にもてなし、よく教えることができなければなりません。」
Iテモテ3：1-7

今年度も早や2月を迎えました。暦では28日までとなっています。さて、教会では総会等で選出された役員で教会役員会(牧師と共に9名)を行います。その結果は、月報でもお知らせしているところです。具体的には、信徒必携に記されています。①礼拝及び聖礼典の執行に関する事項②伝道及び牧会に関する事項③教会教育及び訓練に関する事項④教会の事務及び財政に関する事項⑤信徒の消息、移動に関する事項⑥教会総会に提出する予算・決算案その他の議案に関する事項⑦教会財産に関する事項⑧その他です。

教会を運営するにあたり、年に一度の教会総会を開催し、次の年度までの間、教会役員会が責任を持って運営にあたることを求められます。教会会計は特に重要な任務を負っています。献金を慎重に管理し、適切に用いられることが求められます。祈ってその業に取り組む必要があるでしょう。なぜならば、神より賜った貴重な財であり、それぞれが収入の十分の一をささげるように聖別された献金であるからです。教会員の皆さんの献金によって教会は運営されているのです。

役員は資質ですが、上記のテモテの手紙に記されている通りです。一般人より以上の適性が求められます。信徒の模範となるべきです。しかし、完全ではない欠けの多い私たちをあえて選び、用いようとして感謝しつつ、聖なる業につかされたいのであります。そして、教会役員のために、ぜひ信仰と知恵と力が与えられますよう日々お祈り下さい。

牧師 永松 清

昨年末、教会のHPの更新が出来なくなったことを知った。私は、丁度3年ぶりに帰省していた従弟を思った。彼は、長く大型コンピューター管理の仕事をしている。もしかしてこの難儀のお役にたてるかも知れないと考えた。D兄弟の許可を得て連絡をした。しかし、折り返し返事すると言ったきり、彼からは何時間たっても返事がなかった。

遅れたには理由があった。父親と二人買い物に出かけた道中で、一台の車が道端に止まっており、一人の女性が外にうずくまっているのを見た。一旦は通り過ぎたが様子が気になりUターンした。女性は頭痛で苦しんでいた。何台か過ぎるくらいの田舎の山道でのこと。従弟は女性の車に乗り、父親は息子の車に誘導されつつ、女性を自宅まで送り届けた、と言う。彼は、私に遅れたことを詫言じた。



この話を聞き、「善いサマリア人」が浮かんだ。旅をしていたサマリア人が、半殺しにされた人を見て憐れに思い、近寄って傷の手当をし、自分のロバに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、回復するまでの費用を払い、宿屋の主人に託した、あの聖書箇所だ。

聖書の中の話が、現代の私たちの日常生活の中で遭遇する出来事と重なると感じた。

イエス様は、人々に「行って、あなたも同じようにしなさい。」と諭された。もし私だったらどうだろう、私の日々は、「(行って)、(同じように)」出来ているだろうかと思問した。



結局、従弟の力ではなくHPは回復できたが、D兄の万策尽きる程の労苦の一端を知り得た。今私は、「隣人と交わり」「神様のみ旨に叶う」よう時を過ごしたいと思っている。



寄稿

神様の愛と私の病氣

◎今、総合グラウンドでラジオ体操している私、生かされている!! H.K.姉

2020年春、コロナが世界中を騒がせ始めた頃、私は体調を崩していった。食事がのどにつかえて食べられず、水と砂糖 病院の点滴だけで一ヶ月が過ぎた。ついに歩けず入院。

原因がわからず検査も異常なく10日間が過ぎ退院した。退院しても元の生活には戻れなかった。10kg.やせたため動くこともままならず、頭の中でなにが起こっているのか？

- ・料理が作れない(メニューが思い浮かばない)
 - ・お風呂に入れない(頭が洗えない)
 - ・外に出ること、2階から1階に降りることができない(こわい!!)
- 精神病になったか？自分が信じられなかった。神様に祈るが、神様がいないと思った。
- ・一番辛かったのが、ねむれないこと。薬を飲んでも眠れなかった。
 - ・教会にも行きたくなかった。だれともあいたくなかった。

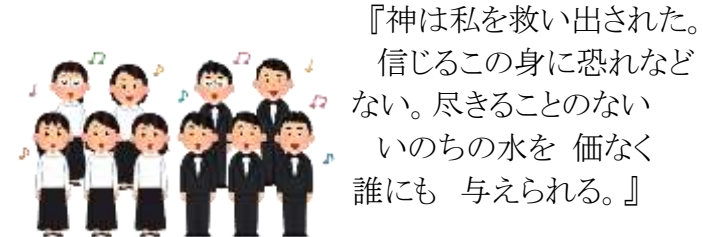
牧師夫妻には心より感謝します。又、教会の皆様にも祈っていただきありがとうございます。半年間、苦しい生活でした。もちろん、T姉、K兄、Sさんには感謝しています。『何で私は、こんなことに？』

結局、神様に命を助けていただいた。神様はいらっしゃる!! 十字架の重さがわかりました。私は弱虫でした。これからも神様が示して下さる道をけわしくても、苦しくても歩んで行きたいと思います。

女性会の会長として何も出来なかった一年間でしたが、会員の方々のご協力をいただいて、新年度を迎えることができました。これからもお力をかしてください。よろしく願います。

《やっぱり、教会はいいなあ～～。最高です》
アーメン

讚美歌 21 452 番



『神は私を救い出された。信じるこの身に恐れなどない。尽きることのないのちの水を 価なく 誰にも 与えられる。』

新約聖書 ローマ書 15章 13節

『希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満ちし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように。』



おススメ図書

“老金期”～天国で神様に会う前に済ませ
ておくとい8つのこと～



著者:田頭 真一

(沖縄・オリブ山病院 理事長～キリスト教 精神に基づく全人医療施設。読谷バプテスト伝道所 牧師 教育学博士・心理学博士・名誉神学博士) (Amazonなどで購入 できます)

1600円+税

～「はじめに」より抜粋～

『今、日本には65歳以上の高齢者が3600万人います。そして、その3600万人のほとんどが、老いを「避けたいもの」「先延ばしにしたいもの」と考えています。しかし、私の考えは全く逆で、老いは「人生の中でも、もっとも素晴らしい時期」であり、「わくわくするもの、待ち遠しいもの」なのです。(中略)

若い人たちはまったく誤解していますが、老いるということは「新しい自分に出会う」ことであり、「新しい力を手に入れる」ことなのです。

老年の時期は、スポーツ選手が日々の厳しい練習を重ね、その結果として、オリンピックという晴れ舞台で金メダルを受取る、そのメダルを受取るタイミングのような、人生の厳しい試練の結果を手にする時期なのです。私はこれを人生の「老金期」(ろうごんき)と名

付けました。老金期は、人生の最も輝いている瞬間のことです。』

～「目次」より抜粋～

- ◇第一章 老いは絶望ではない、希望である。
 - ・人が一番輝くのは老いたとき。
 - ・弱いところのない人はいない。
 - ・動けなくなって、違うことができるようになる。
- ◇第二章 神様に会う前にやっておきたい8つのこと。
 - ・平均年齢 84 歳のおばあちゃん合唱団。
 - ・受験勉強のように、いい歳の取り方を勉強しましょう。
- ◇第三章 「超老力」を身に着け、老いを自分の力にする。
 - ・体力や能力は衰えても、人生の知恵や洞察は深まる。
 - ・「行ってくるね」と言って逝った女性。
- ◇第四章 自分から謝らないと和解はできない。
 - ・介護が必要になる前までに、家族との和解を終えること。
 - ・神様が心配してくれるので、あなたは心配しなくていい。
- ◇第五章 老いはすべてを手放す準備期間。
 - ・ためこむ力から卒業し、捨てる力が身に着く。
 - ・病気になる体、朽ちていく体から解放される。
- ◇第六章 人生の収穫期、あなたは何を伝えるのか？
 - ・カタチの無いものでも伝えられる。
 - ・愛を見つけ、愛を注ぎ、愛を受取る。
- ◇第七章 老いはパーフェクトエイジである。
 - ・80歳。4回目の成人式で「全人」になる。
 - ・アンチエイジングが全てではない、パーフェクトエイジ。
- ◇第八章 手を引いてもらってはじめて気づくこと。
 - ・たとえ認知症になっても、「もぬけの殻」になどなったりしません。
 - ・刺身一切れを食べるために100人の人が関わっている。
- ◇第九章 死を経験して人生は完成する。
 - ・死を「故郷に帰る道のりの一里塚」だと考えると、最後まで精一杯生き切れる。
 - ・「死んだら終わり」ではない、死の先にある希望について考える。
- ◇第十章 老いは「世の中に何を残すか」を決めるための時間。
 - ・「奉仕」によってこの世に足跡を残せる。
- ◇最終章 父がオリブ山病院に残した奉仕のかたち。
 - ・「超老力」リスト 自分のことをチェックしてみよう。